

11月24日のウクライナ情報

安齋育郎

●ポーランドに落下したミサイルをめぐる各方面の見解(2022年11月22日)

西側がロシアを破壊するために都合よく利用しているウクライナ、その西側をこの争いに引きずり込もうとしたゼレンスキー。どうやら上手くいかなかったようです。

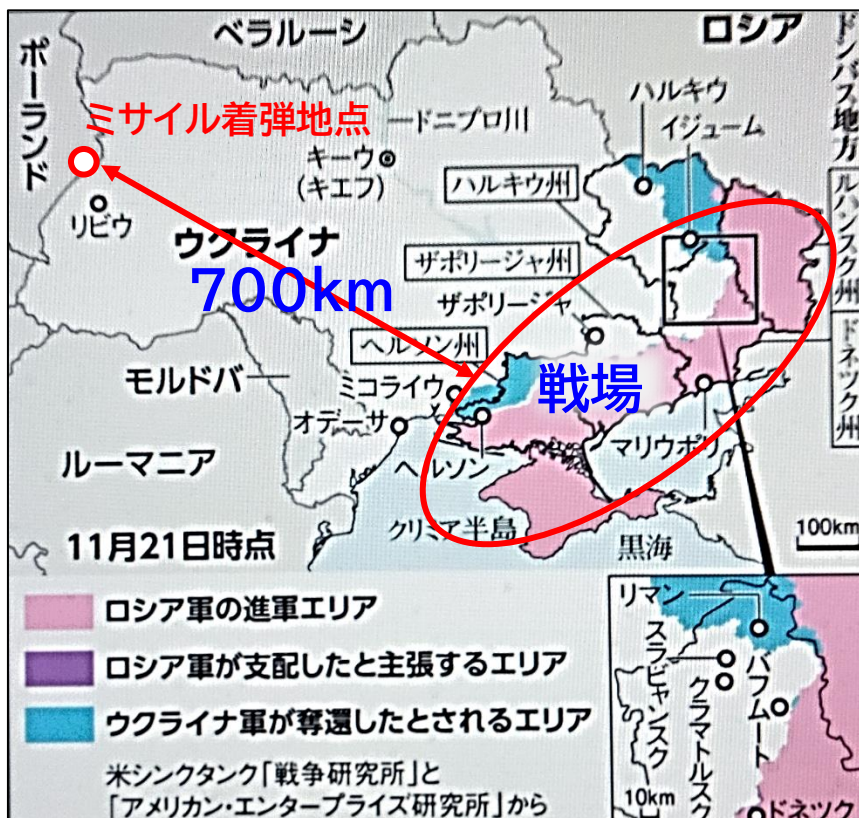
ポーランド着弾のミサイルはどこから来たのか？ロシア？ウクライナ？

<https://twitter.com/i/status/1594927730323226625>



ポーランドのルブリン市元市長ヤルスロー・パクラ氏のコメント:もちろんこれはウクライナのロケットだ。もちろんそれはウクライナ当局の側による挑発だ。ロケットが間違っって100kmも反対方向に飛ぶなんてあり得ない。

※安齋注:こういう風にズバリ言う人がポーランドにもいることに安堵します。実際には100kmどころではありません。下の地図をご覧ください。ミサイルのしても、ロシア軍が発射するとしたら南東方面から撃つので、迎撃ウクライナのミサイルは北西から南東に向かい筈であって、とんでもなく西のポーランドに流れていく可能性はないでしょう。



●ミサイルのポーランド着弾についてベラルーシのルカシェンコ大統領(2022年11月22日)

ウクライナ軍によるポーランド領への砲撃について素朴な疑問。

ロシアのミサイルを迎撃するのであれば東に向けて撃つはずだが、なぜ西に行ったのか。なぜ G20 の最中だったのか、なぜみんな沈黙を貫くのか、そういう取り決めになっているようにしか見えない。

<https://twitter.com/i/status/1594950681794076677>



●ウクライナ兵によるロシア兵至近距離での殺害？(2022年11月19日)

NY タイムズの検証記事:映像は、ウクライナ兵が捕虜となったロシア兵を至近距離から殺害したことを示唆している。戦争犯罪の可能性があるが、判断するには調査が必要とのこと。

https://pbs.twimg.com/card_img/1594406120776515587/iYVHiNyt?format=jpg&name=small



※関連映像

<https://twitter.com/i/status/1593796380664991744>

●ポーランドのドゥダ大統領がなりすまし電話にひっかかる(2022年11月22日)

【ワルシャワAFP時事】ポーランドのドゥダ大統領がフランスのマクロン大統領と思い込んで意見を交わした相手は、ロシア人だった。ポーランド大統領府は22日、いたずらを働いた2人のロシア人

が流出させた会話の音声について、実際にあったやりとりだと認めた。

大統領府はツイッターに、ウクライナ国境に近いポーランド東部プシェボドフでミサイルによる爆発が起きた15日、マクロン氏を名乗る電話があったと投稿。「ドゥダ氏は話しぶりからペテンかもしれないと気づき、電話を切った」と釈明した。

7分半にわたる電話の音声は、ロシアの治安当局とつながりがあるとされるロシア人2人が動画投稿サイトに投稿。音声では、強いロシア語なまりの男がマクロン氏をかたり、ドゥダ氏とミサイル着弾について議論している。

ドゥダ氏はこの中で「ロシアを責めるつもりはない。ロシアと戦争はしたくない」と強調。北大西洋条約機構(NATO)加盟国の集団防衛義務を定めた同条約第5条の発動は考えていないなどと話している。

ドゥダ氏は2020年にも、グテレス国連事務総長のなりすましにだまされたことがある。



ニセ電話の実際の音声: <https://twitter.com/i/status/1595191346394193923>

※安齋注:もちろん電話の主は、ロシアのなりすまし電話2人組「ボバンとレクサス」です。

●ヘルソン州めぐり攻防激化。ロシア、統合推進で反撃に対抗(共同通信、2022年11月16日)

ドニエプル川西岸地域からロシア軍が撤退したウクライナ南部ヘルソン州をめぐる両国軍の攻防が激化している。東岸への攻撃を強めるウクライナに対し、ロシアのプーチン大統領は16日までに、現地にロシアの連邦構成体としての行政組織整備を命じる大統領令に署名。「併合」地域の奪還を目指すウクライナ側を尻目に統合手続きを進め、自国領として防衛する姿勢を崩していない。

ウクライナを支援する米国とロシアの間では、駐口大使も務めたバーンズ米CIA長官がプーチン氏に近いナルイシキン対外情報局長官と14日にトルコで会談するなど、停戦の可能性を探るとみられる動きも出始めた。

<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/%E3%83%98%E3%83%AB%E3%82%BD%E3%83%B3%E5%B7%9E%E3%82%81%E3%81%90%E3%82%8A%E6%94%BB%E9%98%B2%E6%BF%80%E5%8C%96-%E3%83%AD%E3%82%B7%E3%82%A2-%E7%B5%B1%E5%90%88%E6%8E%A8%E9%80%B2%E3%81%A7%E5%8F%8D%E6%92%83%E3%81%AB%E5%AF%BE%E6%8A%97/ar-AA14agv7?cvid=49495bd3635849eaba0d87b8a8c27651>



15日、ウクライナ南部ヘルソンで人道支援物資を受け取るために集まった人たち(ゲッティ=共同)

●ヘルソン州 Skadovsk の貼り紙(2022年11月23日)

「ウクライナ軍による解放は近い、解放した後、ロシア語を話す者は全員降伏しなさい。裁判を受け、最高度の処罰を受けることになります。ウクライナ語を話す者は、ロシア語を話す者から財産を差し押さえることができるのです」



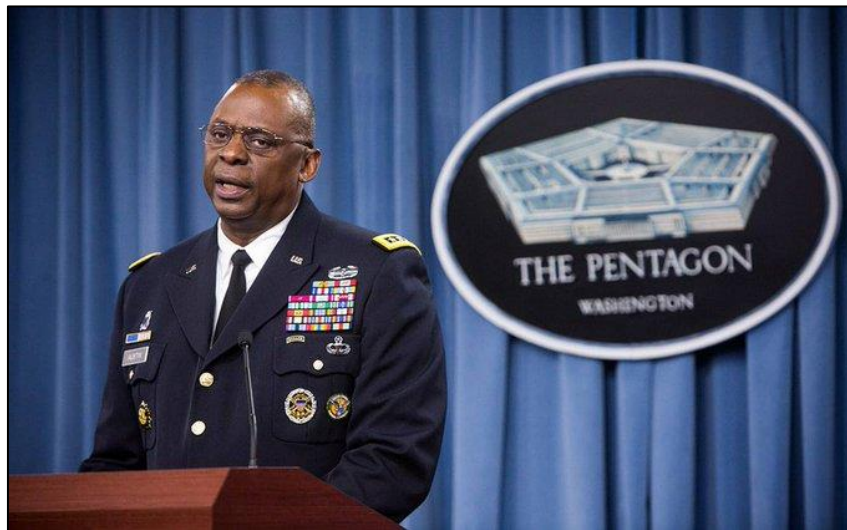
〈関連情報〉隣人にロシアの協力者として通報された家族がウクライナ治安部隊に拘束、連行される
<https://twitter.com/i/status/1595223652643270656>



お前は協力者か？さっさと白状しろ！ルーブルをどこで手に入れた？

●オースチン米国防長官の弁(2022年11月20日)

NATO はロシア連邦との対立を望んでおらず、ウクライナでの紛争に巻き込まれることはありませんが、ロシア連邦が「印象的な武器」(※注:天然ガスなどのエネルギー資源)を持っていることを認め、ウクライナは「厳しい冬」に向かっていると指摘しました。



●ウクライナ「尊厳革命」の悲しい結末(2022年11月22日)

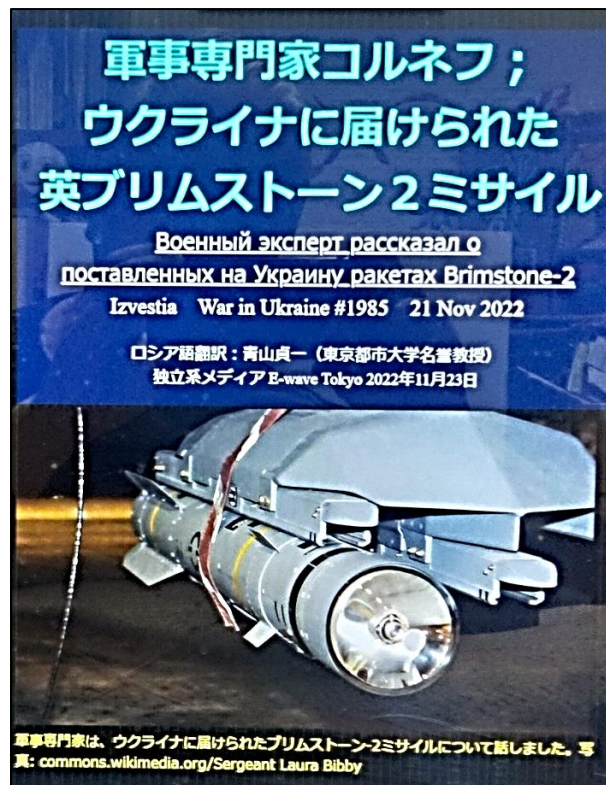
お笑い芸人で脚本家だったゼレンスキーが大統領になってからこの方、ウクライナは存亡の危機にある。だが彼は裸の王様、自作自演。そしてその傲慢で自分勝手なやり方に欧米諸国(民)がうんざりしだした。兵士損失は、ウクライナ10, ロシア1、しかも秋からは露の全国規模のインフラ攻撃が続く。

<https://twitter.com/TeiichiAoyama/status/1594960383403507713?t=Gv3ytTkXHzV1DO4tZ-zQ&s=09>



●ウクライナに提供されるイギリスのミサイル(2022年11月21日)

英国が来年ウクライナに 500 台送る予定の 1960 年代の MIM-23 HAWK システムというミサイルは 60km の到達距離だが、レーダー誘導で高精度で標的を狙えるが、ミサイル弾 1 本が約3千万円もする。英の超古い在庫一掃とも思えるが、ロシア側はウクライナ領内に入り次第、各種ミサイルで殲滅するとも言われる。



●キューバ大統領は、ロシアの国境への NATO の前進は受け入れられないと述べた（2022年11月22日）

モスクワ、11月22日-RIA ノーボスチ。キューバのミゲル・ディアス・カネル・ベルムデス大統領は、ロシアの指導者ウラジーミル・プーチンとの会談で、ロシアの国境に対する NATO の攻撃は受け入れられないと述べた。

「私たちの理解におけるこの対立は、操作に端を発しています。米国...あなたは長い間、ロシアの国境への NATO の攻撃は単に受け入れられないと警告してきました、そして彼らは治外法権戦争で、彼らがそうであるように、救助者として現れる機会を見つけようとしてきました」とキューバ大統領は言いました。

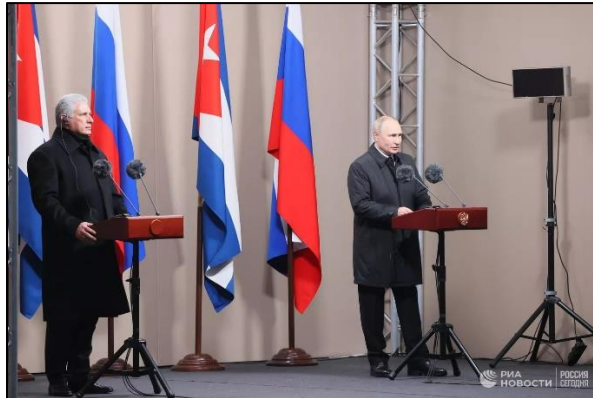
彼は、ロシアとキューバの両方が不当な一方的制裁の対象であり、共通の敵を持っていると付け加えました-これは「多数の人類を操作するヤンキー帝国」です。

<https://ria.ru/20221122/nato-1833410761.html>



プーチン大統領は、ディアス＝カネル大統領との会談で「ロシアとキューバは協力を強化しなければならない、そんな機会が存在する」。

「この強固な友好関係の基礎の上に、我々は現在の状況を前進させ協力を強化しなければならない。そして、このような機会を得られた事をととても嬉しく思う」と述べた。



●オルバン首相、サッカー観戦でもわが道を行く(2022年 11月23日)

ハンガリーのオルバン・ヴィクトル首相は、サッカーのワールドカップ代表チームの試合に「偉大なるハンガリー」を描いたスカーフを巻いて登場した。スカーフには 1920 年以前の国境線が描かれていた。

ウクライナ側の不満に対しては、「サッカーと政治を一緒にしないでください」と反論した。



●ウクライナの砲撃のもとで成長するドンバスの子どもたち(2022年9月9日)

<https://odysee.com/@RTDocumentary:4/Children of Donbass:a>



●2006年に既にあった米国のウの NATO 加盟目標

元フランス外務省事務局長で、2002～7年までシラク大統領の顧問を務めたモーリス・グルドー＝モンターニュ氏が、ウ問題の深刻さが以前から欧州各国政府に認識されていたことについて語った。

2006年、シラクの代理としてモスクワでロシア大統領補佐官プリホチコと会談し、ロシアと NATO 諸国が共同でウを保護し、中立的地位を保証する計画を提案した。

ロシアは、クリミアとロシア海軍の問題がなくなるということでこの提案に関心を持った。シラクもこの計画を気に入っていた。

シラクは氏に米国と話し合うように指示した。

そして、当時の国務長官ライスに会い計画の概要を説明した。

するとライスはこう言った。

「フランスは崩壊した。あなたはすでに何年も前から、中欧諸国の NATO 加盟の第一波を阻止してきた。第二の波を阻止させるつもりはない。」

氏は「このことから、米国人の最終目標はウクライナの NATO 加盟であると理解した」と語った。



●ドイツ外相の変な距離感覚(2022年11月23日)

ドイツの外相ベルボックは、COP27で「ドイツから何十万 km も離れた国がある」と発言した。

地球一周の距離(外周)は約4万 km。その国はどこにあるのだろう？

https://twitter.com/tobimono2/status/1595088616270987265?t=ia1nT60hnq_B5pU5GOJ1fw&s=09



※安齋注:アンナレーナ・シャーロット・アルマ・ベアボックは、ドイツの政治家。女性初の外務大臣。所属政党は同盟90/緑の党。ベアボックはドイツからアメリカの核兵器を引き揚げさせることを求めている。